

「伝統文化ゲーム」を始めませんか

新緑が映える梅雨が間もなく明けて夏本番を迎える季節となりました。今日は小池自治会の活動の一つをご紹介させて頂きます。戦中生まれの私ですが、疎開から戻って間もなく小池小学校から大森第六中学校へと上池上町の皆さんに可愛がられながら育ってきました。しかし、社会人となってからは地元の方々との接触が殆どないままでした。古稀を迎えた頃から仕事も減らし(減り)、母校のクラブ活動のお手伝いなどのボランティアに参加し始めましたが、平成27年1月に将棋のアマ高段者・栗原 亘さんが先頭にたって小池自治会館で毎月第2、第4土曜日の「囲碁将棋会」が開催されるようになります。私は世話役を仰せつかっております。

「若」は幼稚園年長さんや小学校低学年から、「老」は間もなく米寿の将棋名誉名人まで総登録者は囲碁；18名、将棋；20名となりました。毎回の参加者は平均15～16名くらいです。



夫々が和気あいあいと、時には本気で勝負を挑むライバル同志や、強豪が初級者に丁寧に教えている光景、はたまた次の一手に身を悶えるように真剣に悩む姿などをたびたび目にします。

晩学ながら碁学を続けている私の独断で思いつくままに、囲碁将棋の効能を順不同で羅列してみます。(1)「礼に始まり、礼に終わる」のが対局マナーの基本なので礼儀正しくなる。(2)集中力や決断力が養われ、先見性も身に付く。(3)相手の側に立って物事を考える協調性が生まれる。即ち、勝っても驕ることなく人を思いやる気持ちが醸成される。(4)形勢判断や目算が必要なので算数(暗算)に強くなる。(5)「対人頭脳ゲーム」なので認知症のリスクが減少するし、予防の効果もあるかもと聞きます。

老若男女・力量を全く問いませんのでご参加をお待ちしております。

(小池・鵜飼 久)

(句会は月二回水曜日、石川町文化センターで行っています。)

軋みつつ江ノ電ぐいと西日中
夕闇を統ぶる一匹ひきがへる
艶やかに山河いろどる茄子の紺

放心の蜥蜴の背なの陽を返す

浮き雲の一つ遠くに鳳仙花
白日傘一回転の内緒事

ふり向いたそこが昭和よ冷奴
そろそろと低き声往く螢の夜

晩年のなほも大志や雲の峰

俳句 東中・岩波博庸 「丘の会」会員



健康を語る

サラリーマン生活を一昨年卒業し、今は自由な時間の毎日となりました。思えば、当時は、時間割生活であったが、運動不足や高カロリーの摂取の毎日だった気がします。そのことから、これから的人生を「健康で長生き」を目指し、現在、その生活を一步一步実践しているところです。

そこで、第一に、とにかく体全体を動かすことです。週最大で4日(実際は、2日から3日程度)ですが、中延のスポーツジムに自転車で15分～20分かけて通っており、ストレッチや器具(機器)で汗を流してトレーニング、その後入浴してさっぱりとして帰るという日課のせいか肩こりや腰の痛みも軽減した気がします。一方、何故か体重は変動しなしなので、何が問題があるかも知れません。

第二に、ウォーキングです。これは水曜日や日曜日を中心に月数回ですが、少し離れたところで、イベント、自然など季節を感じながら歩いています。有酸素を取り入れることで、気持ちの良い風を体の中に取り入れています。

第三に、落語を聞くことです。落語会には、週に2回程度聞きに出かけ、落語の想像の世界にのめり込んで笑いをもらっています。特に、二つ目の落語会は、若手の落語家と気楽に交流でき、又常連客と情報交換が図られるのでより楽しいものです。遂には、自然とある落語家の後援会に入会してしまいました。

近所の落語会は、久が原会館・洗足プリモ工房・池上久松温泉・大森円能寺などで定期的に開催されていますので、できるだけ聞きに行きたいと思っています。落語は、頭の体操にもなりリフレッシュするのに最適です。

サラリーマン時代より、数倍も健康的になった気がしています。
(上池上・KK)

お詫びと訂正
「ふれあい雪谷」平成29年4月さくら号の「編集後記」の執筆者名が一部漏れていました。訂正してお詫び申し上げます。
執筆者名(池の台・柏三八子)

編集後記

片貝山屋の想い出がびっしりと詰まった東雪・高野さんの切々と語る文、胸に迫ります。親類縁者そして過去者との深い「ふれあい」を感じます。南雪谷・河野さんの30年前の思い出、機知ある対応に読者諸氏もにんまりとなされたのでは。河野洋一郎さんはこの4月より立麻裕穂さんと交代した編集委員です。立麻さん、長い間ご尽力頂きありがとうございました。

(東中・秋山一雄)

ふれあい雪谷(創刊・平成2年(1990)12月20日) 年4回発行
(1月・新年号／4月・さくら号／7月・あさがお号／10月・もみじ号／の1日発行)
[発行日] 平成29年(2017年) あさがお号 7月1日(通巻・第107号) 発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集]「ふれあい雪谷」編集委員会
[連絡先] 雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

ふれあい
雪谷

平成29年7月 あさがお号 通巻第107号

雪谷特別出張所管内(平成29年4月1日現在)

世帯数/30, 210世帯(対前年比 274世帯増) 総人口/61,526人
男/29,771人(対前年比94人増)・女/31,755人(対前年比124人増)
※外国人住民を含めた数にしております。



大田区制70周年記念式典に出席して、そして皆さんに感謝

昨年八月には「このたび貴方は統計調査の功労者として表彰されることになりました」と小池百合子東京都知事名による手紙が届き、何かの間違いかと思いましたが、出張所の牧井所長の話によると国勢調査を昭和四十五年から始めていたからだそうです。人生こんな事もあるものだと思い、ありがたく昨年の十一月八日都庁に行き総務大臣の表彰状と銀杯をいただきていまりました。

これからも安心・安全な町づくりのため、石井会長の下、理事の皆さんと一緒に防犯パトロール・交通安全週間・スポーツまつり等の行事を手伝つて行きたいと思つています。

多くの皆様に感謝、感謝。

(池の台・渡邊亞紀夫)

オカリナの魅力

皆さんは「オカリナ」をご存知ですか。「名前は聞いたことがある、音色は知っている。」という方は多いと思いますが、「形は？」と聞かれさっと答えられるでしょうか。「何か鳩笛の形をしたような……」正解です。元々、オカリナはイタリアで生まれた楽器で「オカ・カリーナ」＝「可愛らしいガチョウさん」という形から付いた名前なのだそうです。この楽器の魅力を幾つかお話しさせて下さい。

一つ目は、軽いので持ち運びやすいという事です。掌に載るくらいの大きさで（音の低い大きいサイズのもあります）気楽に持ち運べます。

二つ目は、他の楽器と比べて比較的値段が安いということです。ちょっと楽器をかじってみたいと思う人には最初の一歩に高い楽器を買っても続くのか不安で二の足を踏む場合もあるのではないかでしょうか。その点オカリナはお小遣いを少し貯めた程度で手にできるので、気楽に始める事が出来ると思います。

そして三つ目は、とりあえず少し練習すると一曲仕上がると言ふ事です。これは楽器初心者にとってとても大切なことだと思うのです。大抵の楽器の場合一曲仕上げるまでに結構時間がかかり挫折してしまうという事がが多いと思います。オカリナはとりあえず曲が吹けるようになるので達成感があり、次への意欲が生まれます。これが皆さんにお勧めする一番の理由です。

皆さんも始めませんか。笹丸自治会では今後初級者向けの教室を考えています。(笹丸・小林忠雄)

昭和二十二年三月十五日、大森区と蒲田区の合併により大田区が誕生しました。本年三月十五日には七十周年を迎えて、三月十九日アプリコホールに区民一四〇〇名が招かれ大田区制七十周年記念式典を盛大に祝いました。長年大田区の発展に尽力された多くの功労者の中には、石井昭夫会長（投票管理者）の表彰もあり、又厳しい練習で鍛えられたリオオリンピックパラリンピック入賞選手五名とプロボクシングチャンピオン田口良一さんには大田区民栄誉賞が贈られました。

「笑顔このまちから」大田区イメージソングの作詞家湯川れい子さん、作曲家千住明さんのスペシャルトークもあり、歌手の夏川りみさんの歌声と共に会場は笑顔いっぱいの大合唱になりました。

これからも大田区では一一七の自治会・町会の地域力を中心として、日本のゲートウェイ、世界に開かれた国際都市おおたへと大きく羽撃きましょうと、区民を代表して松原区長の力強い宣言がありました。

さて私ですが私が自治会の役員になつたのは二十代後半だったと思います。その自治会の消火隊として洗足池商店街の若手八名の一人に選ばれ、毎月一度洗足池図書館前のポンプ小屋から洗足池横の道路までポンプ車を運びました。消防署員と消防団員の指導の下、繰り返し基礎訓練を行いました。馴れて



田

初めての海外出張

今から30年も前のことである。勤務先から、初めての海外出張を仰せつかった。当時はまだ、日本人のモーレツな働きぶりが、良くも悪くも海外で鳴り響いていたころであった。出張先はアメリカだったが、出発に際し、エレベータを利用するときに「閉」ボタンを押すな、という妙な注意をされた。これは、アメリカでは、エレベータのドアは自動的に閉まるのを待つのが普通で、「モーレツ社員」が普通でないことをやってヒンシュクを買わないようにするための配慮であった。

現地に到着して空港で駐在員と落ち合い、ホテルでチェックインを済ませて部屋に向かった時のことであった。エレベータが何階か上がったところで、突然、駐在員が私に英語で聞いてきた。「そんなに忙しいのかい？」

同じ日本人の駐在員が、なぜ英語で…?と、一瞬戸惑ったが、すぐに事態が理解できた。エレベータには、我々の他に、アメリカ人と思われる老婦人が乗っていた。私は、その婦人の目の前で「閉」ボタンを連打していたのである。「失礼」とか「申し訳ない」という通り一遍の言葉では、この事態を収拾するには不足に思えた。私は、精一杯、何食わぬ顔を装って言い放った。

「そりゃそうさ、日本人だからね。」

老婦人は爆笑した。我々もおおいに笑った。

(南雪谷・河野洋一郎)

父の故郷、片貝山屋での思い出

昭和11年頃、私の父母が新婚時代の話です。私の父、朝五郎の生地は新潟県の小千谷市（旧三島郡）片貝山屋です。ここは今では高速道路のパーキングエリアにもなり、毎年9月の花火大会では四尺玉を打ち上げることでも有名な所ですが、その頃は何もなく、父の実家は両親が細々と農業で生計を立てていました。私の父が結婚して初めてのボーナスを貰った時、父はそのお金で両親を“お伊勢参り”させる為に田舎に送りたいと母に申し出たそうです。母は快く承諾し、お金を送りました。そして私の祖父、安荘（やすぞう）と祖母ツモが待望の“お伊勢参り”に行きました。その事が村でも評判になり、祖父と祖母はいつも楽しげに“お伊勢参り”的話をしていたそうです。私の父も両親を“お伊勢参り”に行かせた話をよく私に話してくれました。

その祖父が昭和18年12月26日、66歳で急に亡くなりました。その時、父は名古屋の岡崎に出張中で死に目に会う事が出来ませんでした。母からの電報で急ぎ帰って来た父がお葬式に当時5歳の私を連れて行ってくれました。

私にとって生まれて初めての旅です。上野から上越線にのり、三國トンネルをぬけると小千谷です。現地は大雪でバスは動かず、馬車で家に向かいました。私は短靴で歩く事が出来ないので、藁靴を買ってもらい、はき替えました。家に着くと親戚の人々が大勢で出迎えてくれました。そして私と父は仏様になった祖父の前に出ました。樽が高かったので5歳6か月の私は父に抱いてもらい、祖父を拝みました。仏様は丸い樽の中に膝を折って座っておられました。生まれて初めて見る光景で、幼い私の心に焼きつきました。火葬場には雪道が大変だという事で、子供は留守番でした。

祖父が亡くなった後も夏休みに田舎に行くのは樂しみでした。寺泊での海水浴、栃尾又や大湯温泉旅行は大勢で行きました。小川で魚とりをしたり、野山を走り回りスイカ、トマト、キュウリ等を取って食べた事など、楽しかった思い出がいっぱいです。

祖母は、祖父が他界後27年生きましたが、昭和45年3月15日、93歳で亡くなりました。

父も亡くなり、私は今年78歳になりました。今年の新盆か旧盆には片貝山屋に行き、祖父、祖母の墓参をしたいと思っています。

(東雪・高野英毅)

職員の異動について

4月1日付で、雪谷特別出張所職員の異動がありました。
大前洋二副所長、町田智司住民サービス担当係長、
松原由佳里、喜屋武英明、成田崇史が他所へ異動しました。
新たに伴幸江副所長、岩本美智子住民サービス担当係長、
小山正、古澤亮人、坂本彩香が赴任しました。
どうぞよろしくお願ひいたします。